

学校教育目標 「笑顔と拍手につつまれて 夢に挑戦 根岸の子」



ねぎし

横浜市立根岸小学校
学校だより
12月号
令和5年11月30日

ホームページ



12月は人権月間

校長 杉山 真理子

いよいよ12月2日(土)は150周年セレモニーと150周年くすのき音楽会です。今、校舎内は150周年を祝う飾りつけや歌声や呼びかけが聞こえ、お祝いムード一色です。当日が楽しみです。午後には、これまで根岸小学校を支えてくださった地域の皆様、来賓の皆様をお招きし、150周年式典を開催します。過去の大きな災害などの困難にも負けず、学校を守り支えてきた地域の皆様に、心より感謝申し上げます。

さて、12月は人権月間です。クラスの友達とも慣れ、互いの性格も理解してくる頃。今一度、「誰もが安心して過ごせる学校(学級)」について、日頃の生活を見直していきます。「いじる」。バラエティー番組やネット上、日常会話にも出てくる言葉です。第39回全国中学生人権作文コンテストから「いじる」行為から学んだ作文を紹介します。

「いじられキャラ」という言葉を聞くと、「みんなから愛される人」という印象を持つと思う。だが、本当にそうなのだろうか。私の友人に、よく周りからいじられている子がいた。その子はいつもニコニコしていて、誰にでも優しく、全く怒らないタイプだった。だからみんなは毎日その子をいじっていた。最初のころは、軽いいじりだった。私もその子のことをいじり楽しんでた。だがそのいじりはだんだんエスカレートしていった。その子のことをひどくバカにした。り、みくびった発言をしたりしていた。日が経つごとに、いじりはひどくなっていった。ひどい時にはその子を部屋に閉じこめ、出られないようにドアを押さえたり、カギをかけたりした。「ねえ開けてよ！」そう言ってもみんなは笑っていた。さすがに私は、いじめなんじゃないかと思っていた。周りの人も、何人かはそう思っているようだった。しかし、その場の空気や本気で楽しんでいる人達に怖気づいてしまい、私は何も言えなかった。そして何よりその子も笑っていたからだ。嫌そうな顔をせず、楽しんでいるように見えたからだ。なので私は「この子は大丈夫なんだな」と思い、そのままみんなと笑っていた。

この頃から、その子へのひどいいじりは毎日になり、当たり前になっていった。その子を叩いたり強く押したり、その子から逃げたり避けたり、もうなんでもありだった。しかしその子は一度たりとも嫌な顔をしたり怒ったりはしなかった。ただ笑っていたのだ。もう私は、ひどいいじりを受けている所を見ても、何とも思わなくなっていた。私はその子のことを、「何をされても怒らない子」と勝手に決めつけていた。

ある時から、私も周りの人からいじられるようになった。初めはちょっかいをかけられるぐらいで、私も楽しかった。だがそのいじりもだんだんひどいものになっていった。まず、私のことが嫌いだと何人かに大きな声で叫ばれた。冗談だということは分かっていたが、何だか惨めな気持ちになった。私がみんなの方に行くと逃げられたりした。靴をとられたり、隠されたりした。すごく嫌で、やめてほしかった。本当は嫌って言いたかったけど、もし言ったら空気を壊してしまいそうと言えなかった。何より、仲の良い友達にいじられるからすごく言いつらかった。だから笑って耐えることしかできなかった。ところが私へのいじりは日に日になくなっていった。ホッとしたが、心の中はもやもやしていた。

私は実際にいじられてみて、気付いたことがあった。それは、「いじり」は「いじめ」と変わらないということ。いじっている人からすれば、「いじめ」ではなく「いじっているだけ」と思うかもしれないが、いじられている本人からすると、「いじめられている」と感じてしまう「いじり」もあるのだ。そのことを身に染みて実感する出来事があった。毎日みんなからひどいいじりを受けていながらも、笑顔だった友達が泣いたことだった。私はすごく驚いた。この友達は「何をされても怒らない子」ではなかったのだ。そもそも、そんな人なんていないのだ。そして私は気がついた。それは、無意識に私は「いじめ」をしていたということだ。「軽いいじり」は、いつのまにか「いじめ」に変わってしまったのだ。私はその子に謝り、それ以来いじることをやめた。私は実際にいじられることで、「いじられキャラ」の辛さを知った。「いじられキャラ」はけして「愛されキャラ」ではなかったのである。(以下後略)

さて、「いじり」と「いじめ」境界線はあるのでしょうか。そして、どう違うのでしょうか。